

# 世界の農業機械・資材トレンド

ヨーロッパの農業機械テストの権威、ドイツ「profi」誌に掲載された世界の農業機械情報。

## 限界なき巨大トラックへの情熱 From U.S.A

始めた。農場用トラックの買い替えに10万ドル（約1,300万円）以上出費する気のある人なら誰でも注文できる。

この通称「バッドボーイ」「ヘビーマッスルトラック（HMT）」の重量は6.0tで、エンジンは202kw/275馬力のディーゼルエンジン。サイズは車高3.0m、車幅2.4m、全長6.4m。オプション装備をすべて付けると価格は38万ドル（約4,940万円）を超える。やりすぎだろうか。決してそうではない。驚くべきことに、世界で最も高価だろうこの自家用トラックを入手するには、6週間の順番待ちが必要なのだという。

## Ringing the changes

## 変化を迎えるコンバイン市場 From Finland



——厳しい貿易環境で苦しむのは農家だけではない。

フィンランドのコンバインメーカー、サンポローゼンルー社ならこう言うだろう。

同社はそれでも、市場の大混乱が続いた90年代も何とか60%の国内シェアを維持し、輸出市場でも堅調な伸びを見せていた。

加えて、2003年にサメードイツファール（SDF）グループと提携したことで、より安定した質



現在フィンランドのコンバイン工場で、デウツ・ファー・ブランドカラーである緑の機体が生産されている。

易量を確認できている。

事実、輸出とSDF製品の販売が同社の将来を支えるとさえ言える。サンポ社では現在、2000台のトラクタ利用者を抱えるイギリスを始め、ウクライナ、ドイツ、ハンガリー、ロシアなど25カ国への輸出を行っている。

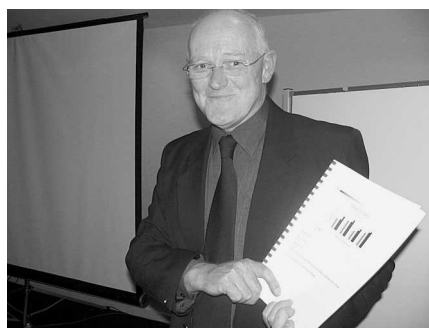
イギリスに出回るものの多くは、サンポブランドが知れ渡っているプロットコンバインや専門家向けコンバインだ。プロットコンバインを別にすると、主に売れているシリーズはサンポ「2000/3000」とドイツファールの「54/55」だ。

フィンランドではこの他、SDFトラクタを輸入するケスコ社がクラススのハーベスタシリーズを、また、サンポ社傘下のハンキジャマータロウス社がジョンディア製品を販売する。これに対し、ヴァルトラの販売店網ではコンバインを扱っておらず、今後、販売代理権契約の大幅な組み換えがありそうだ。

## 記録的な農機販売となった2004年 From Australia

用トラクタは9947台と驚異的な数である。最後に1万台を突破したのは1989年だからその年以後の数字と言えるだろう。

コンバイン、ベアラの販売まで含めると、前年比で22.0%の著しい伸びとなる。



現在の販売台数の維持が困難だと感じられるほど、2004年のオーストラリア農機産業は活性化した。

## Big Boy Blue makes the grade

## 鉱山で活躍する青のトラクタ From Netherlands



ニューホランドTGを改造した写真のグレーダは、14tとかなりの重量があり、オランダ南部の鉱物採掘抗付近の道路を整備するのに使われている。

ポルスワード市にあるボス社が、青い「TG230」トラクタを改造し機体を伸長させた。TGのフレームとドライブシャフトを伸ばし、標準のトラクタより前輪の車軸が2m前方に位置するようにされた。その他には、500ℓの燃料タンクと、当然の装備品としてがっしりとした幅

4mのブレードが車体下に装着させてある。ブレードは最大45°まで回転でき、ブレード全体、または両サイドそれぞれで高さ調節ができる。

ブレードの素材には硬化処理がなされ、研磨性がある鉱物原料が多い土地でも作業できるように対策が施されている。



機体を伸張させた強力新型ニューホランドTGが、オランダの鉱山付近の道路を地ならしする。



## Red range backs horses for courses ※

新型ベアラが馬主を応援  
From South Africa



マッセイファーガソン(MF)の販売代理店パーワールド社は、南アフリカでのベアラ販売を再開するという思い切った決断を下した。再参入するベアラ市場では厳しい競争が続いており、現在9つのメーカーにより38種のモデルが販売されている。加えて、市場規模も特に大きいとは言えない。しかし2004年、ロールベアラとスクエアベアラの販売台数は合計420台で、前年比67%増と大幅な伸びを見せたという現状もある。

MFの数あるベアラ機種の中で最も革新的な機種が「MF139」小型スクエアベアラだ。この機種独特の「センターライン」設計により、圃場の角でトラクタが旋回する際にも、ベアラの中心軸がズレず、飼料を収穫し続けることができる。

刈り取られた飼料は、センターリ

グオーガによってまず供給室内の空間に運ばれる。すると押し込み爪が成形前処理室へ作物を押し込む。ここでは、前処理として作物が圧縮されてスライス状にされ、この後メインの成形室へ移動する。押し込み爪によって材料の薄片はすでに細かくなっているため、成形室底部のナイフがするのは飼料の薄片の形を整えるだけだ。そして、ブランジャが圧縮しベールにする。

南アフリカの裕福な馬主層は、このベアラの作る梱包ベールに興味を持つことをMFでは期待している。



マッセイ・ファガソン「139」の作る小型方形ベールに南アフリカの馬主の関心が集まることが予想される。

※原題のhorses for coursesは「それぞれのコース(競馬場)にそれぞれの馬がある、人にはそれぞれ得手不得手がある」という意味の慣用語。

## Looking into direct combination

直播機の比較調査  
From Finland



フィンランドの110万haの穀物耕作地のおよそ14%、つまり15万haで、直播が行われている。実際に同国で使用されている直播用の施肥播種機のメーカーは9つあり、それは、パーティニ、グレートプレーンズ、ジュンカリ、シムルタ、スーパーシード、トゥメノヴァ、VM、コングスキルデ・デメター、マルチシード、クラウス、セマート、そし

てヴェーダーシュタットラピッドだ。

同国のMTTヴァコラ研究所 (<http://www.mtt.fi/english/>)は、過去2年の夏に、パーティニ、グレートプレーンズとジュンカリを除く上記メーカーの機体で比較テストを実施した。このテストは、作業後、機体ごとに作物の収量と品質に現れる影響を観察するというもので、各メーカーによって技術や性能に差があるかどうかを調べている。



播種の深度とコルタトにける庄の調整が、直播用播種機の性能を分ける。播種深度を深くしてしまいがち。

## How much is too much?



巨大でパワフルなトラックに寄せるアメリカ人の熱狂的な思いは、とどまることを知らない。

テキサス州ニュートン市のホームランドディフェンスヴィークル社は、合衆国陸軍の中型戦術車両を自家用車に改造するビジネスを



世界で最も高価な自家用トラックとなるか? 販売価格はおよそ40万ドル(約5,160万円)。

## Dry end to near-record year



長引く干ばつにも関わらずオーストラリアの農家は、2004年をこの国の農業機械産業にとって“素晴らしい”年にした。

過去15シーズン、農家の投資意欲を計る伝統的な指標とされるトラクタ販売台数は、最高水準をキープし続けている。ベアラの販売も好調だ。これらにコンバイン、エアドリルシーダ、カルチベータの販売を加えると、オーストラリアの農家は過去12カ月の間、主要農業機械に13.6億オーストラリアドル(約1,130億円)以上を出費したことになる。

アグリビュー社のアラン・カーステン氏は、オーストラリアトラクタ農業機械協会(TMA)のために農業機械関連のデータを収集し提供する業務を行っている。同氏は、2004年が確かに「販売実績が顕著に伸びた年だったが、惜しくも年間1万台には達しなかった」と話す。

それでも、2004年に農家が購入した農業